



## 「川端に牛と馬とがつながれて」

中村三郎

中村三郎は長崎市麴屋町に生まれ、若山牧水に師事し、三十二歳で生涯を終えた天才歌人である。三回忌には牧水が来崎して墓前で歌を吟じた。長崎時代の斎藤茂吉とも親交があった。画家としても名を残し、「グラバー図譜」はその代表作である。

県立長崎図書館前に建つ三郎の歌碑には次の一首が刻まれている。

川端に牛と馬とがつながれて

牛と馬とが風に吹かるる

同館所蔵郷土史料の模写にも取り組んだ三郎は、

図書館の大きな時計の下にゐて

しんと本読む真黒き頭

と詠っているが、今はなき「大時計」と、大正期から変わらぬ「しんと本読む真黒き頭」は、当館の歴史をも彷彿とさせる。